

「ダブル連結トラック」出発式を開催 ～長距離輸送の省人化と脱炭素を推進～

センコー株式会社(本社:大阪市北区、社長:福田 泰久、以下「センコー」)は、1月26日に大型車2台分の貨物を、1名のドライバーで輸送できる「ダブル連結トラック」の出発式を、フジテック株式会社の東京フィット(東京都大田区)で行いました。



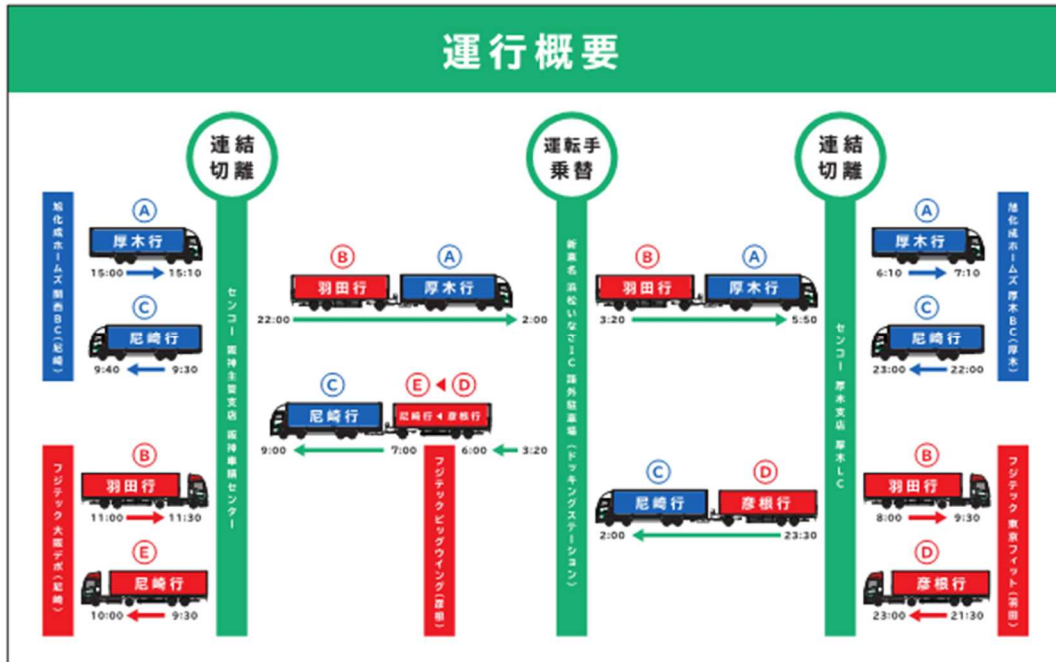
テープカットの様子

(左から、センコー 取締役常務執行役員 河合 利広、フジテック 執行役員 物流本部長 中山 忠久様、センコー 取締役専務執行役員 大越 昇、旭化成ホームズ 施工本部 物流部長 橋 徹様、センコー 執行役員 河野 誠司)

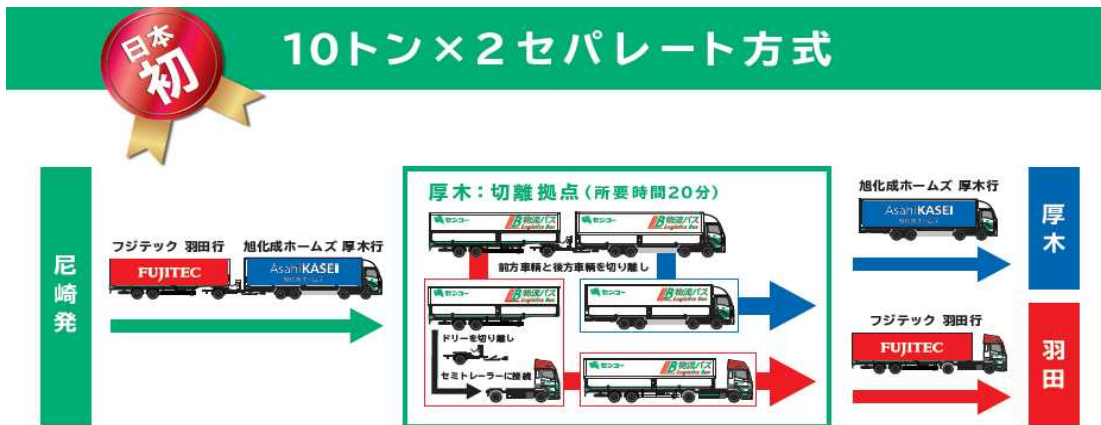


ダブル連結トラック

トラックドライバーの高齢化により深刻化が増す人手不足、2024年には法改正によりドライバーの時間外労働時間が1日当たり1時間短縮され、現在の長距離輸送方法では目的地への円滑な配送が難しく、経済活動のボトルネックになりかねないと言われています。



その対応策として、センコーは2021年3月にプレスリリースした「物流バス」サービスメニューの1つとして、長距離輸送において1人のドライバーが大型トラック2台分の荷物を輸送できる「ダブル連結トラック」の運行を開始。大型車2台分を別々に集荷し、2台を連結してセンコーの拠点を出発したダブル連結トラックは、高速道路の長距離区間をドライバー1人が輸送、途中のダブル連結トラックドッキングステーションでドライバーが交代、再び切り離し地点まで1人で輸送し、ドリー式(※)と言われる方法で大型トラック、セミトレーラーの2台に分け、同時にそれぞれの配達先に向かうことで、ドライバーの拘束時間とCo2排出量のダブル削減に貢献します。



センコーが提供する日本初の幹線輸送

長距離幹線区間(高速)は連結してドライバー1人で運行、
切り離し拠点から10トン車とセミトレーラーの2台に分かれ
同時に別々の納品先へ運行可能

今回、旭化成ホームズ株式会社(本社:東京都千代田区、社長:川畑 文俊)、フジテック株式会社(本社:滋賀県彦根市、社長:内山 高一)にご協力いただき、ダブル連結トラックで2社の貨物輸送を開始。ダブル連結トラックを途中で切り離し、別々のお客様の納品先まで同時に配送するのは、国内初の取り組みとなります。

センコーは、今後もダブル連結トラックの拡大を通じ、次世代の長距離幹線輸送を構築していく考えです。

※ドリー式：連結装置（ドリー）によりトレーラーと連結・脱着すること。このダブル連結トラックは、10トン車の後方に付けたドリーでセミトレーラーを連結しています。

導入効果

運転時間削減効果

運転時間 / 年間

6,440時間



BEFORE

3,908時間



AFTER

「ダブル連結バス」導入前と比べ
2,532時間
約**40%**
運転時間削減

CO2削減量効果

CO2排出量 / 年間

484.8t-co2



BEFORE

321.6t-co2



AFTER

「ダブル連結バス」導入前と比べ
163.2t-co2
約**30%**
排出量削減

導入効果(目標)	導入前	導入後	削減効果
台数	5台	3台	-2台
ドライバー数	5名	3名	-2名
走行距離	2,022km	1,197km	-825km
CO2排出量	2,02t-CO2	1,34t-CO2	-0,68t-CO2
運転時間	26時間50分	16時間17分	-10時間33分

導入効果(年間)	導入前	導入後	削減効果	削減率
台数	1,200台	720台	-480台	40.0%
ドライバー数	1,200名	720名	-480名	40.0%
走行距離	485,280km	287,280km	-198,000km	40.8%
CO2排出量	484,8t-CO2	321,6t-CO2	-163,2t-CO2	33.7%
運転時間	6,440時間	3,908時間	-2,532時間	39.3%

<関連リンク>

・2021年3月23日 プレスリリース

「長距離幹線輸送の新サービス「物流バス」を本格運行～運輸業界の課題解決に貢献～」

<https://www.senkogrouphd.co.jp/about/news/assets/940413ed25880ea35abbaa7eb40bf228eca55014.pdf>